

令和元年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和元年7月24日(水) 午前10時～午前11時30分
- 2 開催場所 伝国の杜2階 第2小会議室
- 3 出席者
(委員)
堀江 昭浩(置賜地区高等学校教頭会会長)
後藤 満男(中学校教頭会会長)
山田 隆弘(小学校教頭会会長)
小川 正昭(一般社団法人米沢観光コンベンション協会専務理事)
布施 賢治(米沢女子短期大学教授)
那須野桂子(伝国の杜ファンクラブ)
前山みゑ子(伝国の杜サポーター、おしょうしなガイド)
長谷川茂則(米沢フィルハーモニー管弦楽団) 計 8名

(事務局) 公益財団法人米沢上杉文化振興財団
種村信次(理事長)、島津眞一(副理事長兼博物館長)、
菅野智幸(常務理事兼事務局長)、角屋由美子(学芸主査)、花田美穂(学芸主査)、
阿部哲人(学芸主査)、遠藤友紀(主任学芸員)、佐藤正三郎(主任学芸員)、
安部理絵(主任舞台企画員)、藤元周平(主任舞台企画員)、
小松史織(主事)、小野寺里津(主事) 計 12名

欠席者
(委員)
山村 洋子(原始布・古代織参考館副館長)、山根 秀樹(米沢古典塾主宰)

- 4 開 会 (小 松)

- 5 あいさつ(理事長)

日頃から委員の皆さまには財団事業に対するご意見・ご協力を頂戴し、深謝する。今年度の財団の目標・方針について、理事長就任後のこの1年で感じたことを踏まえ、「運営方針」に「チームワーク力を高める」という点を加えた。市民のため、市の観光のためという視点で、組織の協力体制を整え、事業の質を高められるよう運営していきたい所存。財団の将来に向け、組織を機能的に動かすためにいろいろなことを積み重ね取組んでいきたい。

春の特別展「上杉家 葵の姫のものがたり」は、非常に興味深い内容で大型連休を挟む会期もあり、目標入館者数を大きく上回る来場者があった。現在は企画展「生誕100年 日本画家 福王寺法林」を開催中であるが、展示作品が大変素晴らしいという思いと共に、来場者数が伸びず残念な気持ちも深めているところである。利用者に歴史・文化に対する理解が浸透するよう、PRを行い、伝国の杜として来場してもらえる体制をつくっていきたい。

運営やその他一般的事項に対して様々課題があると思うので、意見を頂戴したい。

- 6 委嘱状交付
机上配付にて委員へ委嘱状交付。
委嘱期間は令和元年7月24日から令和3年7月23日まで。
- 7 委員自己紹介
- 8 職員紹介（事務局長）
- 9 議 事
運営協議会要綱第6条に基づき、小川正昭会長が議長として議事を進行。

【報 告】

- ①平成30年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価について
事務局長が概略を説明した。

（堀江委員）

各事業の来場者数について見込み数に対する達成度が算出されているが、この見込み数はどうやって設定しているのか。

また、「時間外労働や多忙感の縮減に努める」という項目は評価数値も低いようだが、何か具体策があれば聞きたい。

（事務局）

博物館の来場見込み数は、時期ごとの常設展来場実績を基礎に、過去の類似展覧会における対企画展入場者割合を加味して予測している。ホールの場合は採算バランスを考慮し予算上のノルマを達成できる数字に1割を加えたものを見込みとしており、目標数はその上に置くべきと考えている。

時間外労働縮減については、職員と話をしながら現在進行形で対策を練っていかなければならない。

（議長）

時間差出勤の体制はあるのか。

（事務局）

伝国の杜は採用していない。ナセBA（市立米沢図書館）の場合は、開館時間の関係で、同じ勤務時間で早番遅番に職員を振分けてシフトを組んでいる。

- ②令和元年度 米沢市上杉博物館・置賜文化ホールの主な事業について
事務局長が概略を説明した。

（議長）

開催中の福王寺法林展について、入場者数はどんなものか。

（事務局）

目標とする人数は6,800人であるが、会議開催日での現状は、もうすぐ4,000人に届こうというところ。

【御意見、御提言】

- ①伝国の杜（博物館、ホール）は、皆さんの仕事や生活等のなかでどんな役割を果たしていますか

（前山委員）

観光ガイドやサポーター（洛中洛外図案内人）として来館者から直接声を聞ける立場だが、洛中洛外図を目当てに遠方から来訪する人も多く、そういった話を聞くと自分も嬉しくなる。博物館の魅力をより広く伝えるべく、時間のない観光客にも、少しでも博物館に立寄るよう声掛けを積極的に行っている。

財団の目標に「広域交流の促進」が掲げられているが、7月末にベトナムの実習生に日本文化を教えるため体験学習室を利用することになり、これに合わせ七夕飾りの設置を延長してもらうことになりありがたい。

(議長)

上杉文化エリア周辺を訪れる観光客にも最近は時間のない人が多く、例えば上杉神社まで来ても宝物館稽照殿まで回らず帰るパターンがある。こうした時に一歩足を進めてもらえる魅力付けは重要。国際交流方面では、1,000人近い外国人が市内にいるようなので、日本文化や四季折々の魅力を発信していく手法も必要だと感じている。

(那須野委員)

子どもたちに、博物館に素晴らしいものがあることを伝えたい。博物館に対し興味より難しさが勝ってしまう人や、博物館や所蔵品のことを知らないまま進学や就職で市外に出て行く人も多い。米沢出身者でも、良いものが所蔵されていると知らない人は多いのではないか。

(山田委員)

米沢一中で、福王寺法林展を鑑賞した生徒たちの感想文が掲示されていた。文章からは生徒たちが内容を感じ取っている様子が読み取れた。小学校教頭会でも、展示鑑賞等を積極的に教育課程に組込んでほしいと話しているところ。また学校には様々な団体からチラシが送られてくるが、伝国の杜の広報物は優先的に配布し、生徒たちに参観を促している。

先日学校で受入れた視察の担当者が上杉鷹山を好きで、校内をくまなく見学し、息づく歴史を感じ取ったようだ。団体には伝国の杜のことも紹介したが、県外の客人に紹介するには大変良い施設だと思う。別の日には学校にある謙信と鷹山の肖像画を見たいという福岡からの来客もあったが、鷹山などを目当てに米沢を訪れる人も多くいる中で、この博物館があることは魅力だ。

過日開催された能楽ワークショップも大変良い企画だったが、子どもの入場者数が少なく残念。学童保育にも案内したということで、学校だけでなく社会教育団体へのアプローチも行っていることに感心した。

(後藤委員)

ここは県内でも随一の博物館だと考えるが、子どもたちの活用は少ないのではないか。市内の中学校は全て日曜月曜が部活休みなので、月曜の放課後などを、博物館を活用し教養を身につける時間にできれば良いと思う。また、ナセBA ギャラリーの作品鑑賞を美術の授業の評価の一環とした際、子どもたちは積極的にナセBAを利用していた。

以前、上杉神社から大沼デパートまでのコースを歩く社会科部会の現地研修に参加したことがあるが、市内の水道路が江戸時代からの名残であることが分かり非常に興味深かった。おしよしなガイドや旅行会社とタイアップした巡るイベントがあると盛り上がるのではないか。また、スタンプラリーなどがあると子どもたちは喜んで参加すると思う。

ホールは、合唱コンクールや吹奏楽部の演奏会などでも利用しお世話になっている。これからもよろしくお願ひしたい。

(堀江委員)

ナセBAで開催されていた事業について、テスト勉強で多く来館している高校生にぜひ立寄るよう呼び掛けてほしいという図書館長の依頼を受け、チラシを配布し声掛けをしたところ、生徒の足も向いた様子であった。改めて、広報物と合わせて声掛けを行うことに効果を感じたので、教頭会でも働きかけたい。

また、「昔家族と博物館に行ったことがある」という体験があると博物館への敷居が低くなるのではないかと思う。資料の価値に触れるという学問的な面だ

けでなく、家族との思い出という情緒的な面での記憶もあると、子どもにとって違ってくるのではないか。

(布施委員)

地域の大学として、日本史学科として、博物館を利用することは多い。企画展に学生を動員できるときは積極的に声をかけている。

例えば、日本史学科学生のマンパワーを活用し、学芸員の指導のもと学生が博物館所蔵の古文書解読をすることはできないか。博物館は資料の調査研究が進むし、学生は良質な資料に触れられ、さらに読解に寄与した資料が展示に繋がればそれを見に足を運び入館者増に結び付く好循環が生まれるかもしれない。

また、大学茶道部の交流が広いので、座の文化伝承館の催しなどは茶道関係とのネットワークを利用した広報ができると思う。

(議長)

過去、学生の活用などを行ったことはあるか。

(事務局)

学芸員が非常勤講師として受持つ米沢女子短期大学（以下米短）の授業において、「明和六年 米沢城下絵図」のデジタルマップ作成に向け、絵図に登場する米沢藩の武士など5千人の名称を学生に解読してもらったことがある。デジタルマップの作成は全国でも先駆的な取り組みである。授業の成果発表会には、解読に参加した卒業生も多く集まった。関わった学生が、解読した武士の名前を思い出にしてくれたり、家族を連れて米沢を訪れてくれたりする例もある。

(長谷川委員)

文化団体にとって置賜文化ホールが活動の拠り所であるのは間違いなく、これは「財団運営自己評価」の数値に現れない部分だ。団体の活動・研鑽の場として役立っているという点を評価し、今後も自信をもって活動いただきたい。自主事業は、以前から比較すると来場者率が増えつつあり、頑張りを感ずる。

福王寺法林展を鑑賞し作品に感動したが、博物館に素晴らしい作品がこんなに所蔵されていたことを初めて知った。まだ知らない作品が多くあるのだろうと思うが、これをもっと外部に発信できればと思う。

今年7月の参議院選挙では、若い世代がTwitterを用いて選挙に関する情報を収集していることがニュースになったが、例えば米短学生など若者がTwitter等で博物館のことを拡散できないものか。施設ベースの広報には限界があるし、博物館のファン層はコアなものだと考えられる。これ以上利用者を増やすには、ネットを活用した広報で反応を見ることも一手では。

(布施委員)

学生たちはネットによる拡散力・動員力の方が大きいと思うので、電子媒体等を用いての広報は有効で重要だと考える。

(議長)

博物館で展示を見て感激し美術家を志す人や、ホールで音楽を聴いて将来その音楽の世界に入る人がいるかもしれない。米沢の場合、伝国の杜のような施設が人間形成の原点となる場所になるのだろうと思う。

(前山委員)

「家族と一緒に」、「子ども時代の経験」を大事にするという観点は重要だと感じた。子どもが一人動くと、その後ろでその家族も動き出す。また市外の来館者も大事だが、市内の人にもっと博物館の良さを知ってほしいと思う。

(那須野委員)

博物館は敷居が高いなどの理由から苦手な人もいるだろうが、見てみないことには分からないと思うので、そういった人もどうにか呼び込みたい。

(事務局)

山村委員のご意見を紹介。伝国の杜で展覧される催しは、自分にとって人間形成を高めてくれる一つの柱のような感覚。芸術・文化への好奇心を一層誘ってくれる存在になっている。

②伝国の杜（博物館、ホール）で企画してもらいたいものは

(長谷川委員)

ホールでは定期的に色々な事業が開催され、会場の大きさや採算により呼べる団体や催しも限られてくる中で、工夫してよく計画していると思う。

展示については、博物館にどんなお宝が眠っているのか紹介する、「お宝ベスト10」といった発想もいかがだろうか。

(前山委員)

展示のギャラリートーク等に参加すると、いつも顔ぶれが同じになってしまう。一新のためにも、難易度が低めで簡単な市民講座をぜひ開催してほしい。

(那須野委員)

先日、東根市のまなびあテラスで展示を見てきたが、こぢんまりしてとっつきやすいテーマのものは集客も見込めるのではないか。

(布施委員)

米短では、OG 会が思い出の品を持寄り、展示作業や運営も行うような大学史展を開催したことがある。大学と OG 会で展示などの役割を半分位ずつ担当することでマンパワー不足を解消でき、当時を懐かしんで来場する卒業生も多いので、こんな方法もありではないか。

また、展示のテーマとして米沢の近代学生生活史を挙げる。米沢の町と町の人との関わり・交流、食文化などは新たな視点とならないか。他にも、米沢の観光開発の歴史や、オリンピックも近いのでスポーツ史などは面白そうである。

(堀江委員)

本日欠席の山根委員が以前提言したものだが、米沢を合宿地として音楽団体を招聘できないか。南陽市では2年程前にブラスバンドが合宿に訪れ、旅館に宿泊しながら地元の中高生と交流し、好評だったようだ。学生コーラス団体を、という意見もあったが、小規模でいいのでいかがだろうか。

展示は、様変わりした市内高校の変遷を懐かしくたどれるものを見てみたい。

(後藤委員)

運営内部評価はきめ細やかだが、作成するにも大変な時間や労力がかかるのでは。数値目標が動員数になる場合もあるが、意見が出ている通り、数値に表れない評価もあるはず。「働き方改革」も踏まえ、より簡略化するべきと考える。

教育普及の事業について、中学生は月曜日夕方時間が空いているので、月曜午後から受付けるなどすると来館に結び付くのでは。洛中洛外図のナイトツアーなどは子どもたちも楽しく感じそうである。

市内の中学1年生が米沢について学ぶ授業に参加する中で、山工工学部にエジソン時代の古い電話機や電子計算機などが所蔵されていることを知った。こういったものとタイアップし展示ができると良いのではないか。また、戸塚山古墳に焦点を絞り、縄文から古墳時代の米沢に関するテーマも興味がある。発掘された女性の人骨は、博物館に所蔵されているのか。

(事務局)

移動も考えられているようだが、現在「置賜の女王」の骨は駅前の埋蔵文化財センターにて保管している。

(後藤委員)

デジタルマップをよく活用している。米沢の町は昔の地形がそのまま残って

いる部分が多く、デジタルマップを見るとよく分かるので、そういった楽しみ方は子どもたちにも伝えたい。

(山田委員)

米沢市内では年間1,000人程人口が減少しているらしい。人口減少の中、例えば東根市では文化施設や子育てしやすい環境、経済的援助などを整えている。この会議でも「子ども」「家族」というキーワードが多く出ているが、東根の例に学ぶなら、子どもたちが学べる、遊べる施設が必要なのかなと思う。

展示については、教育関係の、例えば明治時代の教師にまつわるものや、米沢の偉人、ゆかりのあるひとに関するものがあると面白い。

ホール事業では、ミュージアムカフェで開催する「Jazz Café live」や、外庭で演奏を行う吹奏楽の日コンサートなど、施設を生かした催事は魅力的。夜の催しでドリンクが出るのも良い。

展示の内容は解説も分かりやすく、感謝している。

(事務局)

山村さんのご意見紹介。

能を鑑賞する際、イヤホンガイドがあればより理解しやすく関心が高まり入場者が増加するのではないか。

事前に展示内容を調べる来館者ばかりではないと思うので、受付職員が来館者にチケットを渡す時、展示の見どころを一言添えると喜ばれるのではないか。

また、過日大阪民博で受付職員からシニア割引を案内されたが、上杉博物館では実施しているか。自分の場合遠来者だから声掛けされたのかもしれないが、受付職員がとても親切で、近隣の文化施設等も案内してくれた。

さらに、ホール事業に関しては、日本の話芸に関する公演や落語などの催しがあれば鑑賞したいと思っている。

(那須野委員)

シニア割引についての意見であるが、「割引」ではなく、差額分が寄附になる仕組みなどはどうだろうか。

(事務局)

シニア割引は現在実施していない。例えば東京では都としてシニア割引を行っており、米沢でも入館料に関する事項は市の許可が必要。また寄附となると市で認可する形をとることも必要と考えられ、難しい面もあるかもしれない。割引については意見として米沢市へ上程したい。

(議長)

消費税増税に伴う入館料改定もあるとのことで、機会をとらえながら割引の検討もぜひ進めてほしい。

(事務局)

多くの前向きなご意見を頂戴し、感謝申し上げます。委員の皆さまには伝国の杜の事業への参観と事業への評価をお願いし、これを外部評価として重要視しているが、特別展「上杉家 葵の姫のものがたり」は委員改選の時期と重なったこともあってか利用が非常に少なかった。本日の会議で多様な意見が出されたことに大変感謝しており、次回以降の事業でもぜひ評価の提出にご協力いただきたい。

10 閉会 (小松)

11 閉会後展示見学

企画展「生誕100年 日本画家 福王寺法林一自然へのまなざし」

展示案内：学芸主査 花田美穂